

# Windows 10 のメリットを 活用するためのポイント (Ver. 3.0)

～継続的にアップデートされる Windows 10  
とうまく付き合う方法～



2020 年 9 月

情報・産業システム部会  
PC・タブレットユーザサポート専門委員会

## 1. はじめに

2020/1/14にWindows 7の延長サポートが終了したことで、Windows 10のPCに移行したユーザも多いと思います。

Windows 10には「Windows as a Service(サービスとしてのWindows)」という考え方があり、機能強化された新しいバージョンのWindows 10が継続的に提供される一方で、旧バージョンとなるWindows 10に対しては、サポートの提供が終了していきます。

このため、ユーザは継続的に新しいバージョンのWindows 10にバージョンアップしていく必要があります。

このドキュメントは、この「サービスとしてのWindows」に関連したWindows 10のメリットや留意点、活用するためのポイントをユーザの皆様理解していただくことを目的にまとめたものです。

これらのポイントを把握しておくことで、Windows 10のユーザにとって、Windows 10がより付き合いやすいOSになるはずです。

Windows 10の一般的な特長機能や操作方法等に関しては言及していませんので、例えば、以下のMicrosoft社のWebページに掲載されている「Windows 10 操作ガイド」などを参考にされるとよいでしょう。

【参考】最新 OS への移行準備をしましょう!

<https://www.microsoft.com/ja-jp/atlife/article-windows10-portal-upgrade.aspx>

このドキュメントは、Windows 10 May 2020 Update(バージョン 2004)が最新バージョンとしてリリースされている時点(2020年9月)の情報を元にして作成しています。Windows 10のバージョンアップ等、将来的な状況の変化によって、本ドキュメントの内容に必ずしも正確でない記載が生じたり、リンク先の情報が変更となったりする可能性がありますことを予めご了承ください。

## 2. Windows 10 のバージョンアップ

### (1) Windows 10 のバージョンと種類

2015/7/29にWindows 10の初期バージョンがリリースされて以降、現時点(2020年9月)までに以下の10種類のバージョンのWindows 10がリリースされています。下の表の通り、各バージョンにはいくつかの表記方法がありますが、本ドキュメントでは、以降それぞれのバージョンを1809、1903、1909、2004などのバージョン番号で表記します。

通称	開発コード(略称)	バージョン	OS ビルド	公開日
初期バージョン	Threshold 1(TH1)	(1507) ※OS 上には表記無し	10240. xxx	2015/7/29
November Update	Threshold 2(TH2)	1511	10586. xxx	2015/11/12
Anniversary Update	Redstone 1(RS1)	1607	14393. xxx	2016/8/2
Creators Update	Redstone 2(RS2)	1703	15063. xxx	2017/4/11

Fall Creators Update	Redstone 3(RS3)	1709	16299.xxx	2017/10/17
April 2018 Update	Redstone 4(RS4)	1803	17134.xxx	2018/4/30
October 2018 Update	Redstone 5(RS5)	1809	17763.xxx	2018/11/13
May 2019 Update	19H1	1903	18362.xxx	2019/5/12
November 2019 Update	19H2	1909	18363.xxx	2019/11/12
May 2020 Update	20H1	2004	19041.xxx	2020/5/27

Windows 10のバージョンやOSビルドは「設定」→「システム」→「バージョン情報」や、「winver」というコマンドを実行することで確認することができます。

また、Windows 10にはエディションという種類があり、一般ユーザが主に使用するのは、HomeエディションまたはProエディションになります。さらに、システムの種類として、32ビットと64ビットがあります。

下の画面は、Windows 10 Pro 64ビット バージョン2004の環境で「バージョン情報」を確認した例です。

設定

ホーム

設定の検索

システム

- バッテリー
- ストレージ
- タブレット
- マルチタスク
- この PC へのプロジェクト
- 共有エクスペリエンス
- キーボード
- リモート デスクトップ
- バージョン情報

### バージョン情報

#### デバイスの仕様

デバイス名 DESKTOP-Q3H2GI5  
プロセッサ Intel(R) Core(TM) i5-7300U CPU @ 2.60GHz 2.70 GHz  
実装 RAM 8.00 GB  
デバイス ID 1CFBEC81-5F2B-44A8-BF04-51FCBB6B59E6  
プロダクト ID 00330-50156-51714-AAOEM  
**システムの種類 64 ビット オペレーティング システム、x64 ベース プロセッサ**  
ペンとタッチ このディスプレイでは、ペン入力とタッチ入力は利用できません

この PC の名前を変更

#### Windows の仕様

**エディション Windows 10 Pro**  
**バージョン 2004**  
**インストール日 2020/06/22**  
**OS ビルド 19041.329**

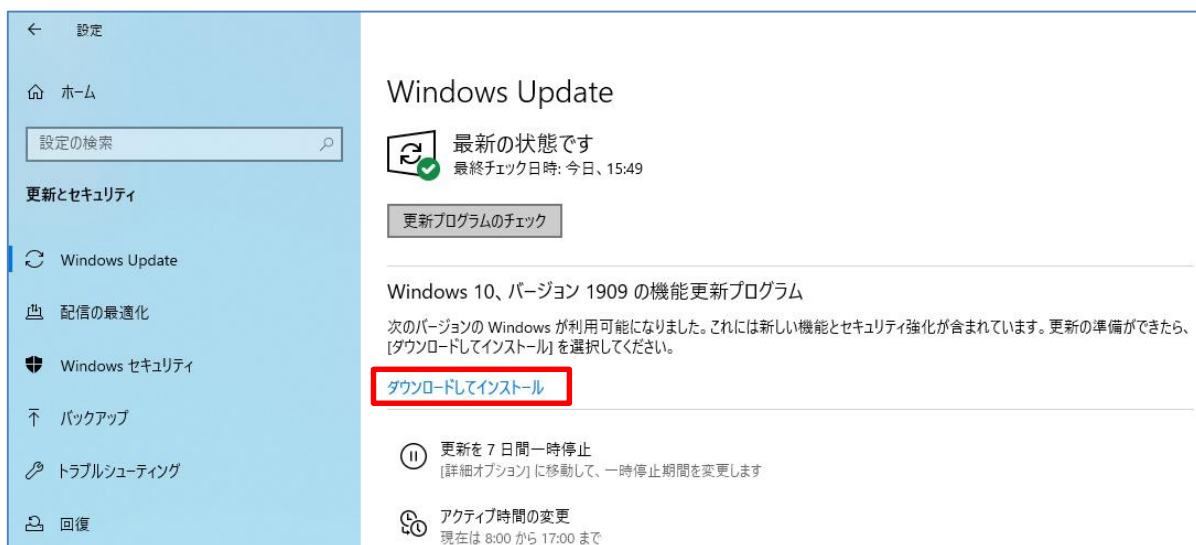
エクスペリエンス Windows Feature Experience Pack 120.2202.130.0  
[プロダクト キーの変更または Windows のエディションをアップグレード](#)

【「バージョン情報」】

## (2) バージョンアップ方法

Windows 10のバージョンは、Windows Updateで新しいバージョンがダウンロード、インストールされることによってバージョンアップされます。バージョン1903以降は、新しいバージョンがインストール可能になると、「設定」→「更新とセキュリティ」→「Windows Update」の画面に下のよう

なメッセージが表示され、「ダウンロードしてインストール」をクリックするとダウンロード、インストールされるようになっています。



#### 【バージョン 1909 の機能更新プログラムをダウンロードする時の画面】

また、新しいバージョンがリリースされても、全てのユーザに一斉にダウンロード可能となる訳ではありません。新しいバージョンがダウンロード可能となるまでに期間を要したり、何らかの条件が整わないと新しいバージョンがダウンロード可能とならなかつたりする場合があります。

下の「Windows 10のダウンロード」のページで「今すぐアップデート」をしたり、「ツールを今すぐダウンロード」してアップデート用のメディアを作成したりしてアップデートすることもできます。

但し、急いでアップデートする必要はありません。何らかの理由で、まだアップデートの準備が整っていない可能性もありますので、「Windows Update」でアップデートできるようになるまで待つことをお勧めします。

「Windows 10のダウンロード」のページでのメディアの作成については、4.の(2)で後述します。

【参考】Windows 10 のダウンロード

<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10>

### (3) Windows 10 のサポート期間

Windows 10 HomeやProの各バージョンに対するサポート期間は、基本的にリリース後約18か月です。バージョン1809については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例外的にサポート期間が約24か月に延長されました。

なお、教育機関向けのEducationエディションと企業向けのEnterpriseエディションに対しては、最大30か月間のサポートが提供されるバージョンがあります。ここでは説明は割愛しますが、それぞれのサポート期間は、下のページで確認できます。

【参考】Windows ライフサイクルのファクト シート

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/13853/windows-lifecycle-fact-sheet>

### (4) 「サポート終了」の定義

Windows 10のWindows Updateで提供される更新プログラムは2種類あります。

ひとつが「Feature Update(FU)」または「機能更新プログラム」と言われるもので、Windows 10のバージョンを新しいバージョンに上げるための更新プログラムです。

もうひとつが「Quality Update(QU)」または「品質更新プログラム」と言われるもので、従来のWindowsのWindows Updateで提供されていた更新プログラムと同様に、対象のバージョンに対して、バグフィックスやセキュリティ機能の更新などを目的とした更新プログラムです。

Windows 10の「サポート終了」とは、それ以降そのバージョンに対する「品質更新プログラム(QU)」が提供されなくなることです。

しかし「機能更新プログラム(FU)」は継続して提供されるので、新しいバージョンのWindows 10へアップデートすることはできます。

例外的には、これに反するようなケース(特定の製品に対して、「機能更新プログラム(FU)」が提供されず、「品質更新プログラム(QU)」の提供が延長されるなど)も起こり得ますが、基本的に、Win

Windows 10の特定バージョンが「サポート終了」になっても、新しいバージョンへアップデートすることによって、使用を継続することができます。

2020年9月までに、Windows 10 HomeやProのバージョン1507から1803については、すでにサポートが終了しています。

#### (5) 従来のWindowsの「サポート終了」との違い

例えば、2023/1/10にWindows 8.1が「サポート終了」になると、以降セキュリティ更新プログラムをはじめとして、一切のサポートが提供されなくなり、そのまま使用するとセキュリティのリスク等が高まるため、実用的には使用できなくなります。

Windows 10の各バージョンに対する「サポート終了」はこれとは少し異なります。

サポートが終了している、古いバージョンのWindows 10がプレインストールされたPCを、最新のバージョンにアップデートして使用していて、何らかの理由で出荷時状態にリカバリし、プレインストールのバージョンに戻ってしまっても、再度新しいバージョンにアップデートすることができます。

古いバージョンのままでは実用的に使用できない点は同様ですが、「Windows Update」や(2)で紹介した「Windows 10のダウンロード」のページで新しいバージョンにアップデートすれば、品質更新プログラムの提供は継続され、使用し続けることができます。

「Windows 10のPC・タブレットを実用的に使用するためには、継続的に新しいバージョンに更新し続ける必要がある」ということです。これが、「サービスとしてのWindows」とは何なのかを端的に現したものです。



### 3. バージョンアップに伴う留意点

#### (1) 互換性の追従の限界

Windows 10は継続的に新しいバージョンが提供され、それを適用していくことによって継続して使用できるOSです。

これを、PCのハードウェアやデバイス、アプリケーションから考えるとどうなるでしょうか。

Windows 10のバージョンアップは、基本的に上位互換となりますので、多くのハードウェアやデバイス、アプリケーションは、以前のバージョンで動作していれば、通常はバージョンアップしてもそのまま動作すると考えられます。

但し、OSの機能強化に伴って、仕様が変更になることもあり、そのような影響で、一部のハードウェアやデバイス、アプリケーションによっては、従来通りに動作しなくなったり、使用できなくなったりすることもあります。

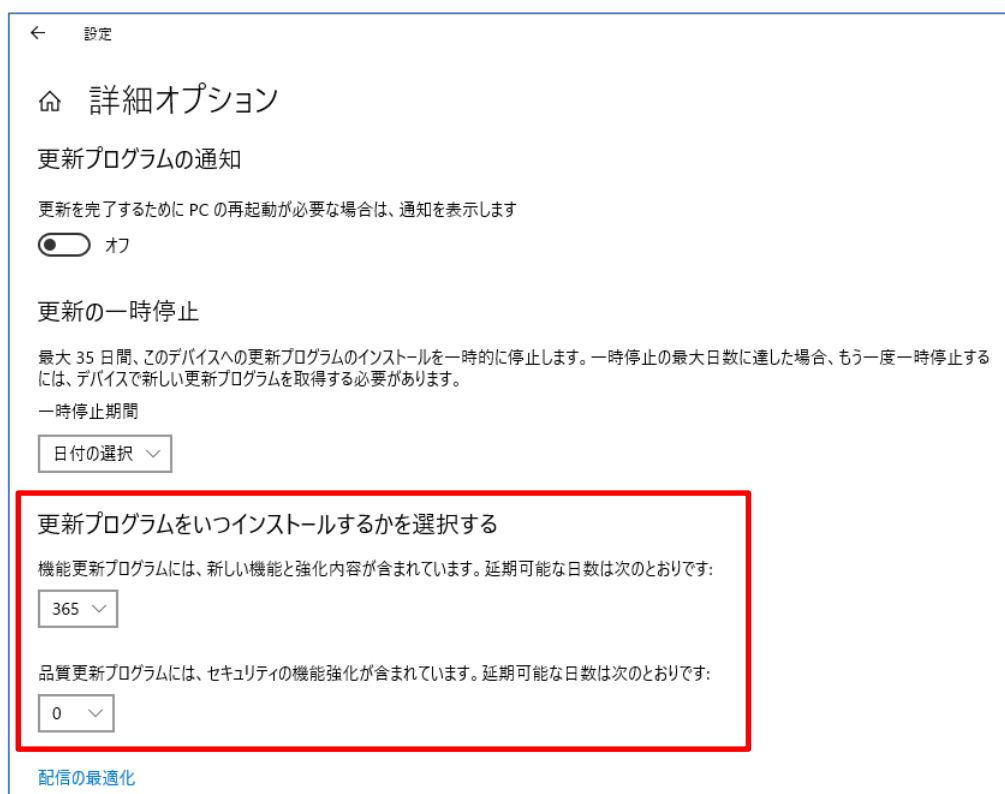
PCメーカーやデバイスメーカー、アプリケーションメーカーなども、新しいバージョンのWindows 10に対応できるよう、ドライバーを更新したり、アプリケーションに改良を加えたりなど、できるだけ追従をしていると思われませんが、デバイスメーカーが事業から撤退することによってドライ

バーが更新できなくなるケースなどもあるため、致し方無く動作しなくなったり使用できなくなるデバイスや機能が出てくる場合があります。

## (2) バージョンアップによる機能変更

Windows 10のバージョンアップに伴って、削除または非推奨となる機能もあります。また、Windows 10のバージョンアップによって仕様変更が発生する場合がありますので、そのような影響で、以前に使用できていたWindows 10の機能が使用できなくなる場合もあります。

例えば、Windows 10 Pro バージョン2004では、バージョン1909などで「設定」→「更新とセキュリティ」→「Windows Update」→「詳細オプション」にあった、機能更新プログラムや品質更新プログラムの適用を延期するための設定項目が削除されました。



【Windows 10 Proバージョン2004で削除された設定項目】

「ローカルグループポリシーエディター(gpedit.msc)」という機能を使えば同様の設定をすることができそうですが、一般ユーザに取っては、難しい設定方法になってしまいました。この設定方法については、6.の(4)で後述します。

Windows 10のバージョンアップによって、このような機能変更や、操作上の変更が発生する場合があります。このこととも理解しておく必要があります。

【参考】 Simplified Windows Update settings for end users

<https://techcommunity.microsoft.com/t5/windows-it-pro-blog/simplified-windows-update-settings-for-end-users/ba-p/1497215>

## (3) Windows 10 に対応していないデバイス等

Windows 10 のメリットを活用するためのポイント(Ver.3.0) 7 / 20

一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA) PC・タブレットユーザサポート専門委員会

例えば、従来のWindowsがプレインストールされていた機器に搭載されていたデバイスやアプリケーションの中には、Windows 10用のドライバー等を準備することができず、Windows 10では使用できないものもあります。

例として、AV関連や著作権保護機能に関連したアプリケーション、指紋認証やTPMなどのセキュリティ関連のアプリケーション、PCメーカー独自のユーティリティやTV視聴機能などが、このようなケースにあてはまる傾向が見られるようです。

このように従来のWindowsからWindows 10にアップグレードすることにより、使用できなくなる機能もあります。

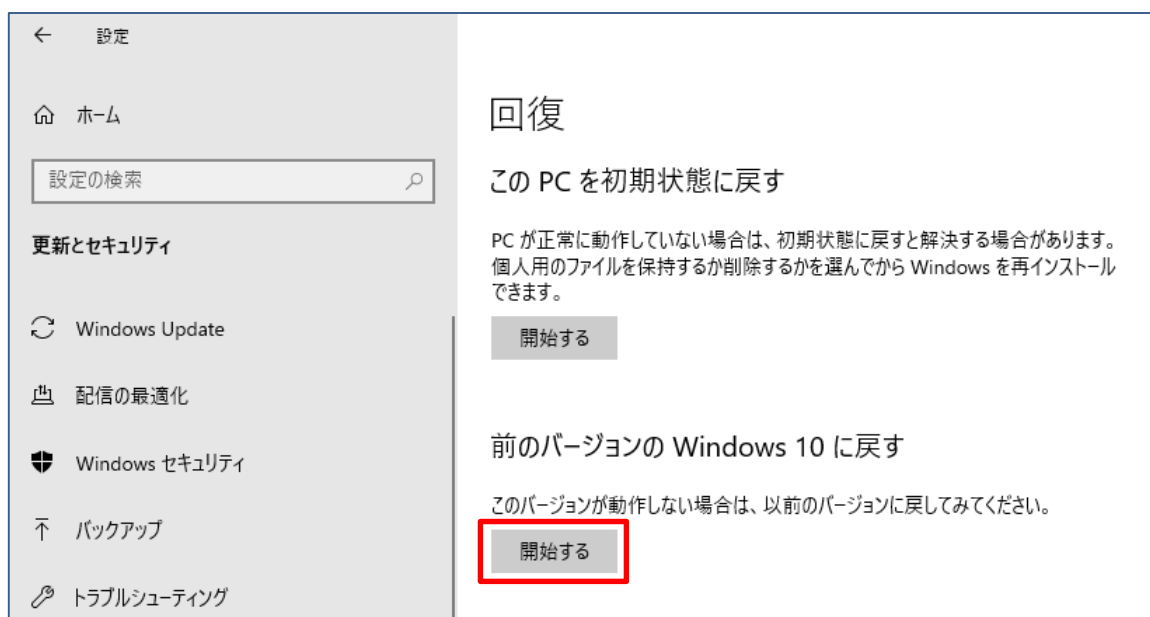
また、Windows 10のリリース後5年以上が経過していますので、当初はPCメーカーがWindows 10へのアップグレードの対象としていた機種でも、最新のWindows 10のバージョンはPCメーカーのサポート対象外となっているケースも多いと考えられます。

従来のWindowsからWindows 10にアップグレードして使用していることでトラブルに遭遇するような場合は、Windows 10プレインストールの新しいPCへの移行も検討することをお勧めします。

#### (4) バージョンアップによる影響

アプリケーションによっては、Windows 10の新しいバージョンに対応するまでに時間を要する場合があります。使用中のアプリケーションが新しいバージョンに対応する前にWindows 10をバージョンアップしてしまうと、アプリケーションが正しく動作しなくなったり、逆にOSが正しく動作しなくなったりする場合があります。

このような場合、一旦前のバージョンに戻して、アプリケーションが新しいWindows 10のバージョンに対応するのを待たなければなりません。「設定」→「更新とセキュリティ」→「回復」→「前のバージョンのWindows 10に戻す」で前のバージョンに戻すのが一般的ですが、この機能は通常、バージョンアップ後10日間しか使えないため、その期間内に判断をする必要があります。その期間を経過してしまうと、前のバージョンに戻すためにはリカバリしたり、OSのインストールをし直さなければならなくなったりしますので、このようなWindows 10の基本的な動作を理解しておくことも大切です。



【「前のバージョンの Windows 10 に戻す」】





## 4. Windows 10 の特長

Windows 10の特長となる機能は数多くあります。ここでは、一般ユーザの方がWindows 10のPC・タブレットのOS環境を構築、メンテナンスする上で重要となる機能についてご紹介します。

### (1) Windows Update

Windows 10のWindows Updateは、従来のWindows のWindows Updateとは異なります。

例えば、古いバージョンのWindows 10がプレインストールされたPCを出荷時状態にリカバリして初期セットアップした後、Windows Updateを何度か実行することにより、その時点でダウンロードされる新しい機能更新プログラムと品質更新プログラムが適用され、新しいバージョンにアップデートされます。

Windows Updateによるアップデートの動作は、実施するタイミングや機種等によって異なる場合があります。また、将来的なWindows Updateの仕様変更によって、動作が変更になる可能性もあるため、具体的な動作については一概には言えません。

2020年3月頃には、Windows 10バージョン1507または1511で、Windows Updateで「更新プログラムのチェック」をすると、「0x80240ff」というエラーが発生し、アップデートできない現象が確認されました。2020年9月時点では解消されているようですが、将来的にはアップデートの動作が変更になる可能性も考えられます。

現状確認できている範囲では、古いバージョンのWindows 10で、Windows Updateでアップデートすると、途中のバージョンをひとつひとつ経由したりすることなく、最新に近いバージョンまでアップデートすることができます。

さらに、何度かWindows Updateを繰り返すことにより、その時点で適用可能な最新の累積更新プログラムが適用され、最新のOSビルドとなります。OSビルドとは、Windows 10のバージョンの中で、より細かい世代を表現した番号です。Windows 10の累積更新プログラムは、基本的にそれ以前の累積更新プログラムの内容を含んでいるため、最新の累積更新プログラムを適用するだけで、最新のOSビルドにすることができます。

また逆に、OSビルドが判れば、どこまでの累積更新プログラムが適用されているかも判ります。

Microsoft社の「Windows 10リリース情報」のWebページには、Windows 10の各バージョンの最新のOSビルドの情報が掲載されています。

【参考】Windows 10 リリース情報

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/windows/release-info>

Windows Updateで「更新プログラムのチェック」を行うと、累積更新プログラム以外にも、セキュリティ関係の更新プログラムやその他の更新プログラムなどもダウンロード、インストールされる場合がありますが、従来のWindowsと比べると、ごく少ない数の更新プログラムの適用によって最新のOS環境にすることができます。これもWindows 10の特長のひとつです。

また、Windows 10のWindows Updateは、更新プログラムを自動的にダウンロードしてインストールします。

従来のWindowsのWindows Updateのように、無効にしたり、手動で個別の更新プログラムをインストールする/しないの選択をしたりすることは基本的にできません。（企業ユーザで、管理ツールなどを導入している場合や特別な設定をしている場合はこの限りではありません。）

## (2) インストールメディアの作成

Windows 10は、2.の(2)でご紹介した「Windows 10のダウンロード」のページから、最新バージョンのインストールイメージを誰でも入手することができます。

この方法でWindows 10の最新バージョンのインストールメディア（USBフラッシュドライブやDVDなど）を作成しておけば、PCをリカバリして初期セットアップを完了した後、このインストールメディアを使用して最新バージョンにバージョンアップすることもできます。

Windows Updateで機能更新プログラムをダウンロードしなくても、最新のバージョンにバージョンアップすることができるため、さらにバージョンアップにかかる時間を短縮できる場合があります。

その後、Windows Updateを実行すれば、最新の累積更新プログラムが適用され、最新のOSビルドにすることができます。

以下の「マイクロソフトコミュニティ」の「フォーラムの記事」でインストールメディアの作成方法が紹介されていますので、参考にしてください。

【参考】Windows 10 の インストール DVD / USB フラッシュ ドライブの作成方法

[https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows\\_10-windows\\_install/windows-10-の/57b52e77-62a7-4542-a6d2-f768972af6be](https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows_10-windows_install/windows-10-の/57b52e77-62a7-4542-a6d2-f768972af6be)

また、この方法で作成できるインストールメディアは、その時点の最新バージョンのみとなります。何らかの理由でひとつ前のバージョンに戻りたいケースなどもあるでしょうから、新しいバージョンがリリースされる前に、現行のバージョンのインストールメディアを作成し、保管しておくことをお勧めします。

## (3) クリーンインストールの容易性

上述の方法で作成したインストールメディアを使用してPC・タブレットをクリーンインストールすることもできます。この方法は、PC・タブレットをリカバリして初期セットアップをする必要がなく、さらにPC・タブレットの初期設定が簡素化できる場合があります。

従来のWindowsは、クリーンインストールするために、OSのライセンスを別途準備したり、プロダクトキーを準備したりする必要がありましたが、Windows 10の場合は、正規の方法でライセンス認証が完了した状態であれば、クリーンインストールしてもライセンス上の問題はありません。

但し、一般にOSをクリーンインストールした場合は、PCメーカーのサポート対象外となりますので、必ずしもクリーンインストールすることを推奨しているものではないことをご理解ください。

また、クリーンインストールの手順についても、PCメーカーからは公開されていない場合が多いので、ユーザ自身で手順を試行したり、一般のWeb情報を検索したりするなどして、確認しておく必要があります。

Windows 10をクリーンインストールした場合、プレインストールされていたドライバーやアプリケーション類はインストールされませんので、必要に応じてそれらを追加インストールしなければなりません。しかし、Windows 10はOS標準で多くのドライバーをサポートしており、Windows Updateでも多くのドライバーが配信されていますので、クリーンインストールした後にWindows Updateでドライバー類をダウンロードすることにより、ほとんどのデバイスのドライバーが適用され、Windows 10の基本機能の大部分が使用できるようになる場合が多くあります。

PCメーカーや機種によって、ドライバーやアプリケーションのバックアップや入手ができるかどうかも含めて、状況が異なりますので、事前に確認と準備が必要です。

また、クリーンインストールすることにより、HDD/SSDの領域が削除され、HDD/SSD内のバックアップ領域からリカバリするような機能は使用できなくなることに注意してください。

Windows 10も、バージョンアップを繰り返すことによって、不要なファイルが増えてディスク容量を圧迫したり、OS環境が不正になって、OSの起動が遅くなったり、正しく動作しなくなったりする可能性があります。

PCに関する詳しい知識があって、PCメーカーのサポートを必要としないユーザにとっては、クリーンインストールしたシンプルなOS環境を簡単に再構築できる点もWindows 10の大きな特長のひとつです。

以下の「マイクロソフトコミュニティ」の「フォーラムの記事」でWindows 10をクリーンインストールする方法が紹介されていますので、必要に応じて参考にしてください。

#### 【参考】Windows 10 をクリーン インストールする方法

[https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows\\_10-windows\\_install/windows-10/650cecc3-458d-4227-a0ce-ce8168570a72](https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows_10-windows_install/windows-10/650cecc3-458d-4227-a0ce-ce8168570a72)

従来のWindowsでも、不具合が発生して、どうしても解消できないような場合は、出荷時の状態にリカバリをしなければならなくなるケースがありました。Windows 10でも、この点については同様ですが、より短時間で簡易的にOS環境の再構築ができるようになっており、その手段もいくつか準備されています。これを活用することで、より快適に安心してWindows 10を利用することができるのです。



## 5. Windows 10の初期化機能

次に、ソフトウェア的なトラブルシューティングに活用することを想定して、Windows 10の初期化機能を紹介します。

Windows 10には、出荷時状態にリカバリしなくても、OS環境を初期化する機能が搭載されています。これを利用して、OS環境が不正になったことによる問題や、追加したアプリケーションの組合せ等によって発生している問題を解消できる場合があります。

但し、ソフトウェア的なトラブルを解消するためにOS環境を初期化するのには、最終的な手段であると考えてください。

例えば、ソフトウェア環境をトラブル発生前の条件に戻したり、OS標準の「トラブルシューティング」の機能を試したり、上記4.(2)で紹介したインストールメディアから起動してコンピューターを修復したり、インプレースアップグレードでシステムをクリーンアップしたりすることでトラブルを解消できる場合もあります。

【参考】Windows 10 - インストール メディアから回復環境を起動する方法

<https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/all/windows-10/ceda35e1-3972-4f27-ae14-12e39196f721>

【参考】Windows 10 でインプレース アップグレードを実行する方法

[https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows\\_10-windows\\_install/windows-10/2d8dddf2-9c86-47e1-a8c7-08dd6d33bd17](https://answers.microsoft.com/ja-jp/windows/forum/windows_10-windows_install/windows-10/2d8dddf2-9c86-47e1-a8c7-08dd6d33bd17)

このような一般的なトラブルシューティングを行ってもトラブルを解消できない場合など、他に手段が無い場合に初期化を行うものであることを理解してください。

### (1) 初期化作業の前の準備

従来のWindowsでも同様ですが、Windowsの初期化を実施する場合は、元の環境に戻せるように、データのバックアップを行い、セットアップやその後の設定手順を整理しておくことが重要です。

Windowsの初期化は、意図的に実施するケースばかりでなく、やむを得ず実施しなければならない場合もあります。そのようなケースに遭遇することを想定し、いつでもWindows環境の再設定ができるように準備をしておくことで、より安心してPC・タブレットを使用することができるようになります。

データのバックアップについては、作成したファイルや写真・動画・音楽などのファイルのバックアップ、メールデータのバックアップ、その他アプリケーションで作成されるファイルのバックアップなどがあります。

設定手順については、Windowsの初期セットアップ時の手順、ネットワークの接続設定、Microsoftアカウントの情報、ブラウザの設定、利用している各種サービスのアカウントとパスワード、追加アプリケーションのインストールモジュールの準備と設定、プリンタドライバーのモジュールの準備と設定などがあります。

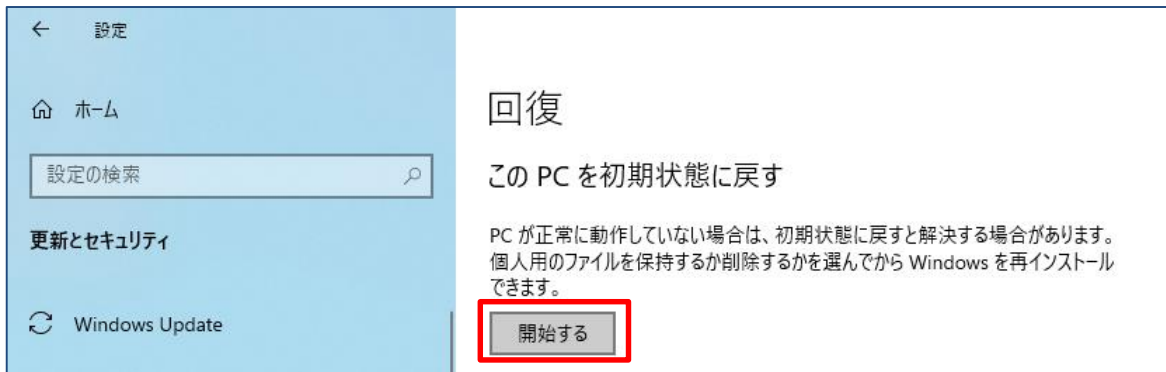
これら以外にも、ユーザによって必要となるデータや設定手順は様々なため、日頃からマニュアルのような形にまとめておくといでしょう。但し、パスワード等の個人情報に関わる情報も含ま

れますので、セキュリティには十分な配慮をしてください。

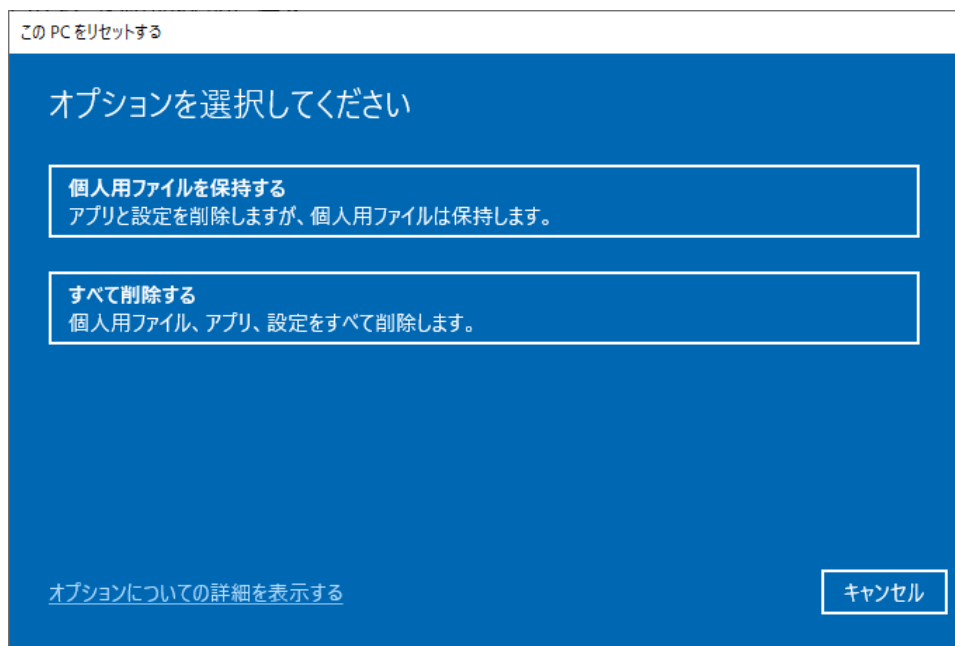
昨今は、PCの初心者の方に対する訪問サービスの利用など、第三者にPC・タブレットの設定を依頼するケースもありますが、もし何らかの要因でその設定が無くなってしまったら、費用を支払ってまた同じ設定を依頼しなければなりませんので、ご自身でも再設定することができるよう、設定手順や設定内容を控えておきましょう。

(2) 「この PC を初期状態に戻す」

「設定」→「更新とセキュリティ」→「回復」に「このPCを初期状態に戻す」という機能があります。これを実行すると、さらに「個人用ファイルを保持する」か「すべて削除する」かのどちらかのオプションを選択する画面が表示されます。



【「回復」】



【オプションの選択】

「個人用ファイルを保持する」を選んだ場合は、作成したファイルなどを保持したままOS環境をプレインストールに近い状態にリフレッシュできますが、ユーザが追加したファイルやアプリケーションなどは削除されますので、注意してください。OS環境の要因によって発生しているトラブルの場合は、解消できる可能性があります。

「すべて削除する」は作成したファイルや追加したアプリケーションなども含めてOS環境がリフ

レッシュされるため、出荷時状態にリカバリする作業に近いのですが、OSの機能で初期状態に戻しているため、Windows Updateで適用したバージョンアップや更新プログラムが適用された状態で初期化されることに注意してください。

バージョン2004では、Windowsをクラウドからダウンロードして初期化する機能もサポートされています。

### (3) 「回復ドライブ」

「コントロールパネル」にある「回復」という機能を使って、32GB以上のUSBメモリに「回復ドライブ」を作成しておくことで、そのUSBメモリを使用して、「回復ドライブ」を作成した時のOS環境にリカバリをすることも可能です。

この場合も、ユーザが追加したファイルやアプリケーションなどは削除されますので、注意してください。

また、PC・タブレット製品の機能として、HDD/SSDのリカバリ領域や、リカバリメディア等を使用して、出荷時の状態に初期化することができる機種もあります。ただし、OS環境が不正になると、HDD/SSDのリカバリ領域からのリカバリも動作しなくなるケースがあるため、「回復ドライブ」やリカバリメディアを作成しておくなど、外部のメディアからOS環境をリカバリできるように準備しておくことも大切です。

### (4) トラブルシューティングのポイント

トラブルシューティングで重要となるのは、まず基本情報の確認です。PCメーカーのサポート窓口にお問い合わせをしたり、「マイクロソフトコミュニティ」をはじめとしたWebのコミュニティや掲示板などで質問をしたりする場合、PCの機種名や型番など、ハードウェア的な情報も大切ですが、Windows 10はバージョンだけでもたくさんの種類があって、「Windows 10」だけでは特定ができないため、「バージョン」「OSビルド」「エディション」「32ビットか64ビットか」「プレインストールベースかもしくはクリーンインストールや初期化をしているか」などの情報が重要となります。

Windows 10の「バージョン」「OSビルド」「エディション」「32ビットか64ビットか」は、2.(1)で紹介した、「設定」→「システム」→「バージョン情報」で確認することができます。

さらに、Windows 7やWindows 8.1からアップグレードしていたり、一旦バージョンアップしたものを何らかの理由で前のバージョンに戻していたり、同じバージョン2004でも、1909からバージョンアップしたのか、1809や1903からバージョンアップしたのかなど、OS環境だけでも膨大な条件の組み合わせが考えられます。

また、Windows 10の場合、OSの条件のみでなく、「BIOSモード」や「セキュアブートの状態」などのBIOS設定もトラブルの発生条件に関連する場合があります。これらの設定は、「Windows 管理ツール」の下の「システム情報」を起動することによって確認することができます。

「BIOSモード」には「UEFI(Unified Extensible Firmware Interface)」という新しいモードと「レガシ」というWindows 7などとの互換性を持ったモード(PCメーカーによっては「CSM(Compatibility Supported Module)」と表現している場合もあります)があります。

「セキュアブート」はOSの起動に関わるセキュリティ機能で、「BIOSモード」が「UEFI」の場合のみ利用できます。一般的に、BIOS設定で「有効」「無効」を切り替えることができ、その状態を「システム情報」で確認することができます。

項目	値
OS 名	Microsoft Windows 10 Pro
バージョン	10.0.18363 ビルド 18363
OS の他の説明	利用不可
OS 製造元	Microsoft Corporation
システム名	LAPTOP-KOUVGT5K
システム製造元	
システムモデル	
システムの種類	x64-ベース PC
システム SKU	PUZ20N
プロセッサ	Intel(R) Core(TM) i7-10510U CPU @ 1.80GHz, 2304 Mhz, 4 個のコア, 8 個のロジカル プロセッサ
BIOS バージョン/日付	Version 2.30, 2020/03/04
SMBIOS バージョン	3.2
埋め込みコントローラーのバージョン	1.40
BIOS モード	UEFI
ベースボード製造元	
ベースボード製品	A0104/0000
ベースボード バージョン	Version A0
プラットフォームの役割	モバイル
セキュア ブートの状態	無効

【「システム情報」の表示例】

トラブル発生の要因を特定したい場合は、できるだけシンプルなOS環境をベースとして、それに対してどんな操作(アプリケーションの追加や設定変更など)を加えるとそのトラブルが発生するようになるかの条件を絞り込むことが重要です。

前述のクリーンインストールの手法を利用すると、トラブル発生要因の絞り込みが明確にできる場合があります。クリーンインストールしてWindows Updateを実行しただけの環境でもトラブルが発生するのであれば、OSの基本機能と対象機種との組合せに要因がある可能性が高くなります。さらに、特定のドライバーのバージョンを変更することで発生する場合は、そのドライバーに要因がある可能性が高くなります。アプリケーションの追加によって発生する場合は、アプリケーションとの組合せに要因がある可能性が高くなり、周辺機器を接続することで発生する場合は、周辺機器との組合せに要因がある可能性が高くなる、などです。

ユーザ自身である程度の条件の絞り込みができれば、トラブル解決への過程はかなり短縮できます。ユーザが追加した複数のアプリケーションの組合せで発生するトラブルなど、PCメーカーやアプリケーションメーカーのサポートを受けられない場合もありますので、このような観点からもWindows 10の初期化機能やリカバリ手順などを把握しておくことは非常に重要です。



## 6. Windows 10 のサービスオプション

本章では、一般的には企業ユーザ向けに提示されている情報が含まれており、必ずしも一般ユーザが理解しなくても良い内容も含まれています。ただし、一般ユーザにとっても、理解することによって、よりWindows 10の特長を活用できることを意図して記載するものです。

### (1) サービスチャネル

Windows 10には「サービスチャネル」という新しい概念があり、Insider Preview (IP)/半期チャネル(SAC)/Long-Term Servicing Channel (LTSC)という3つの「サービスチャネル」があります。

このうち、Windows 10 HomeやProを使用する一般のユーザは「半期チャネル(SAC)」に該当します。「SAC」は「Semi-Annual Channel」の略で、半年に1回のサイクルで新しいバージョンがリリースされる、という意味です。

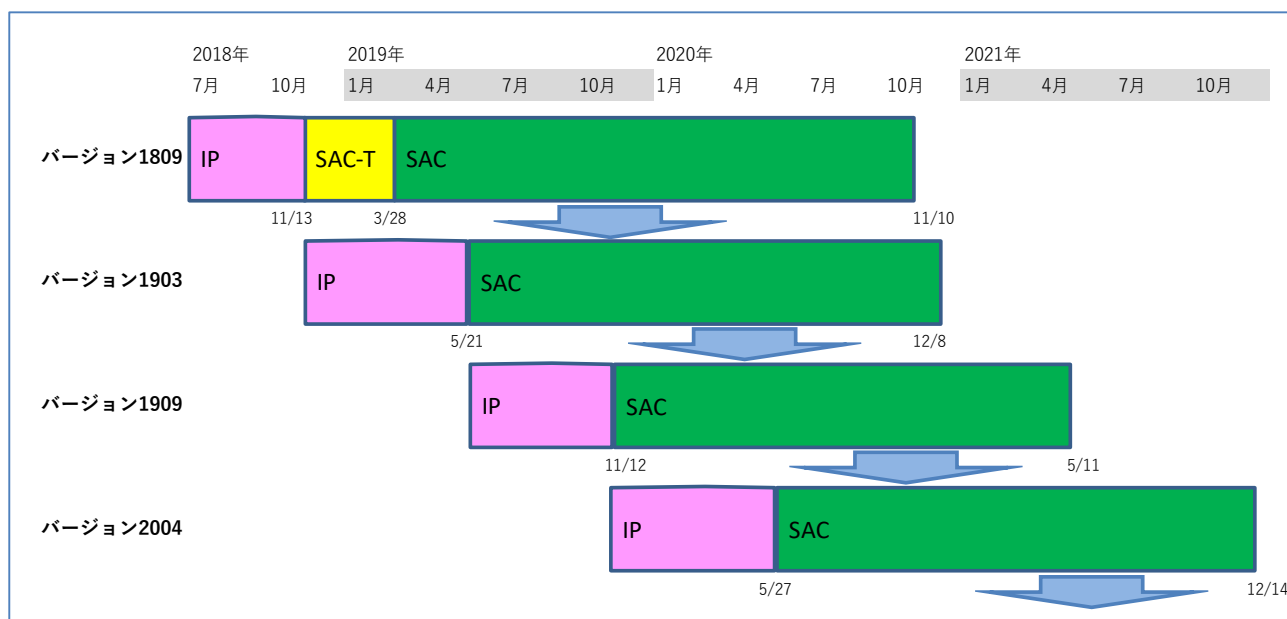
バージョン1809以前は、「半期チャネル」は「半期チャネル(対象指定)(SAC-T)」と「半期チャネル(SAC)」に分かれていましたが、バージョン1903以降、この区別は無くなっています。

「Insider Preview (IP)」は正式リリース前のバージョンを試用することです。正式なOSとは異なるものですので、後述します。

また、「LTSC」は一般ユーザには関係しないものですので、ここでは説明は割愛します。

Windows 10 HomeやProについて、バージョン1809以降の各バージョンのサポート期間とバージョンアップのイメージを現したのが、下の図になります。各バージョンのサポート期間は、SAC(1809はSAC-T)での正式リリース後、18ヶ月となりますが、バージョン1809についてはサポート期間が延長となっています。

新しいバージョンがSACでリリースされると、順次Windows Updateで自動的にバージョンアップが配信されますので、下向きの矢印のようなイメージで、バージョンアップされていきます。



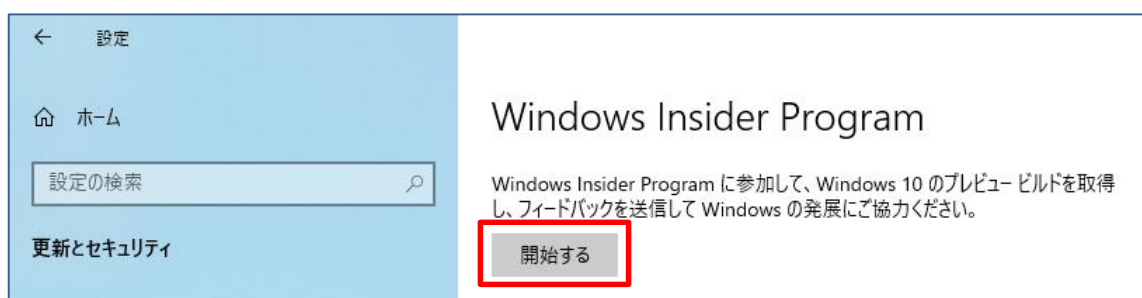
【各バージョンのサポート期間とバージョンアップのイメージ】

### (2) Windows Insider Program 参加時の注意

Windows Insider ProgramはMicrosoftアカウントを取得していれば、Windows 10標準の機能で、



「設定」→「更新とセキュリティ」→「Windows Insider Program」で「開始する」ことによって誰でも参加することができます。



【「Windows Insider Program」】

「Insider Preview」とは、次期バージョン以降のWindows 10や正式リリース前の更新プログラムを評価する仕組みのことです。この機能を有効にすると、評価用の次期バージョンのWindows 10にバージョンアップすることができます。これは、より早く次期バージョンのOSの機能をユーザが試用して、その問題点や提案をMicrosoft社にフィードバックすることにより、より良いOSの開発に結び付けることを目的とした仕組みです。

従来のWindowsにも同様の仕組みがありましたが、Windows 10では、OS標準でこの機能が使用可能で、誰でも簡単に試用することができるようになっています。

反面、Insider Previewがどんな位置付けのOSかを正しく理解しないまま適用してしまい、予想外のトラブルに遭ってPCのリカバリからやり直すことを余儀なくされるようなケースもあるようです。

また、プレインストールされたOSを変更しているため、一般にPCメーカーのサポート対象外となります。

Insider Previewはあくまでも評価用のOSですので、メインで使用しているPCには適用すべきではありません。

Windows Insider Programに参加する際に、利用規約を確認することができますが、そこには、「クラッシュやデータの損失が発生する可能性がある」ことや「頻繁にデータをバックアップする」などの記載があります。

つまり、Insider Previewは、何度インストールし直しても問題無いPCに、それができるノウハウを持っているユーザが試用するためのOSであることを改めて理解してください。

### (3) Insider Previewの効用

Insider Previewを試用することにより、次期バージョンでの動作を事前に確認したり、他の参加者とフォーラムでやり取りするなどして、Windows 10に関する経験と知識をより深めることができるメリットがあります。

また、「フィードバックHub」という機能を利用してInsider Previewに関する問題や提案をフィードバックすることで、次期バージョン以降のWindowsに採用されたりすることもあります。「フィードバックHub」では、他の参加者からのフィードバックを参考にすることもできますので、次期バージョンに関する情報をいち早く得ることもできます。

このように、正しい理解の元に利用するのであれば、Insider Previewは非常に有用な仕組みだと言えるでしょう。



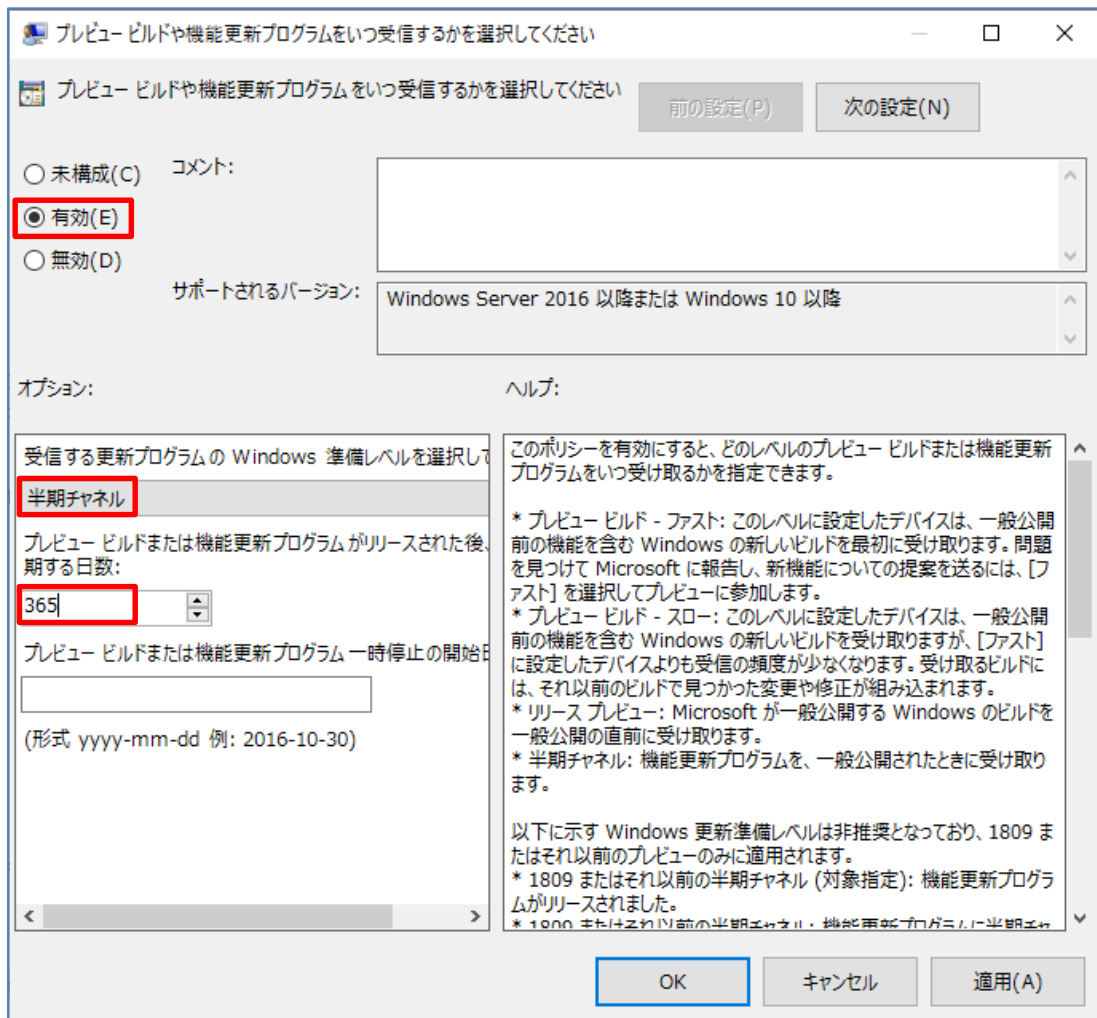
【「フィードバック Hub」】

#### (4) Windows 10 Pro エディションの選択

6.の(1)で説明したとおり、一般ユーザが入手できるWindows 10のエディションは、主にHomeかProになりますが、Windows 10 Proには、新しいバージョンのWindows 10がリリースされてから、機能の更新(バージョンアップの適用)を延期することができるという、Homeには無い機能があります。

残念ながら、バージョン2004では設定方法が変更になってしまいましたが、最大で365日の延期設定をすることが可能です。

「gpedit.msc」というコマンドで「ローカルグループポリシーエディター」を起動し、「コンピューターの構成」→「管理用テンプレート」→「Windowsコンポーネント」→「Windows Update」→「Windows Update for Business」の「プレビュービルドや機能更新プログラムをいつ受信するかを選択してください」というポリシーを「有効」にし、「半期チャンネル」を選択して延期する日数を指定することで、機能更新プログラムの受信を延期することができます。



【ローカルグループポリシーエディターでの設定】

一般に、新しいOSはリリースされた直後よりも、少し経過して更新プログラムがいくつか適用されてからの方が、信頼性や安定性が向上するものと考えられています。

個人向けのPC・タブレットにプレインストールされているWindows 10はHomeが主流となっていますが、個人ユーザでも、業務でPCを使用している場合など、「OSのバージョンアップは市場での安定稼働などの状況を見て、自分の都合の良い時に実施したい」と考える方もいらっしゃると思います。

そのような場合には、Windows 10 Proのプレインストールモデルを購入したり、Windows 10 HomeからProにアップグレードしたりすることも選択肢となります。

但し、Windows 10のエディションをアップグレードした場合は、Microsoft社のライセンスに変更することになりますので、一般にPCメーカーのサポート対象外となることに注意してください。

## 7. まとめ

Windows 10には「Windows as a Service(サービスとしてのWindows)」という新たなサービスモデルが導入されており、機能強化された新しいバージョンが継続的に提供され、旧バージョンに対してはサポートが終了していくため、ユーザは継続的に新しいバージョンにバージョンアップする必要があります。

また、従来のWindowsに比べて、最新の環境へのバージョンアップや環境の再構築、トラブルシューティングがやり易いような考慮がされており、比較的PC に詳しいユーザにとって、より大きなメリットが感じられる傾向があります。このようなWindows 10のメリットを活用できるように理解を深め、日頃から不測の事態に備えた準備を整えておくことにより、Windows 10のPC・タブレットをより安全・快適に使用できるようになります。

Windows 10のPC・タブレットを出荷時状態にリカバリした後に必要な設定を行うための手順を整理しておき、さらに必要なデータのバックアップ、リストアもいつでもできるように準備しておくことが重要であり、これらのことは従来のWindowsでも同様でしたが、Windows 10はこのような準備が、よりやり易くなっているのです。

Windows 10のバージョンアップによって、動作しなくなったり使用できなくなったりするデバイスや機能が出てくる可能性もありますし、機能変更が発生して戸惑うようなケースもあるでしょうが、継続的な機能強化以外にも、上述のようなメリットを享受できることが、Windows 10の大きな特長なのです。

Windows 10のPC・タブレットのユーザの皆様、本ドキュメントの内容を参考にいただき、Windows 10のメリットをより活用していただくと幸いです。

以上

【パーソナルコンピュータ (PC) ユーザーサポート関係 HP(本ドキュメント掲載 URL)】

<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=74&ca=14>



改訂履歴		
2020/9/8	Ver.3.0	初期バージョン掲載

「Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。」